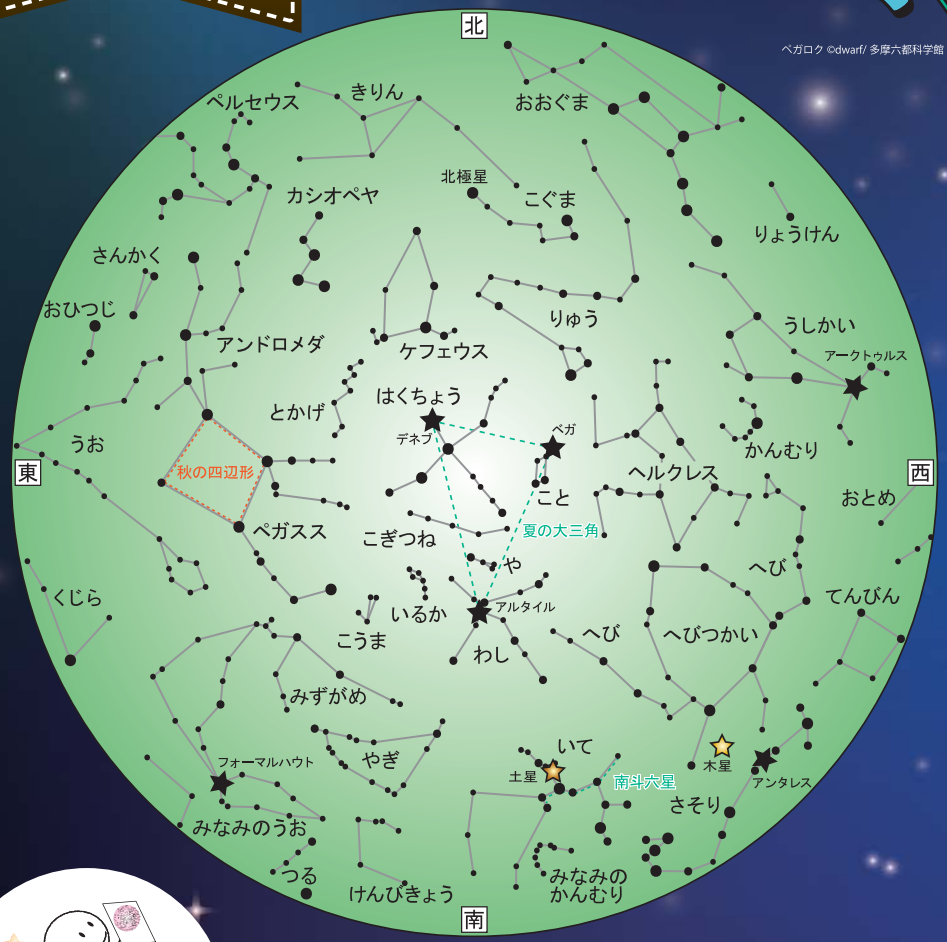
9月の星空

上旬：21 時頃
中旬：20 時頃
下旬：19 時頃

ペガロク ©dwarf/ 多摩六都科学館



星座案内のつかいかた

星座盤は空にかざして方位を合わせて見てください。
（空と重ねると東西の向きが正しくなります）

多摩六都科学館
Tamarokuto Science Center

2019年 9月のおもな天文現象

9/6	上弦
	月と木星が並ぶ
9/8	月と土星が並ぶ
9/13	中秋の名月
9/14	満月（今年最遠の満月）
9/22	下弦
9/23	秋分
9/29	新月

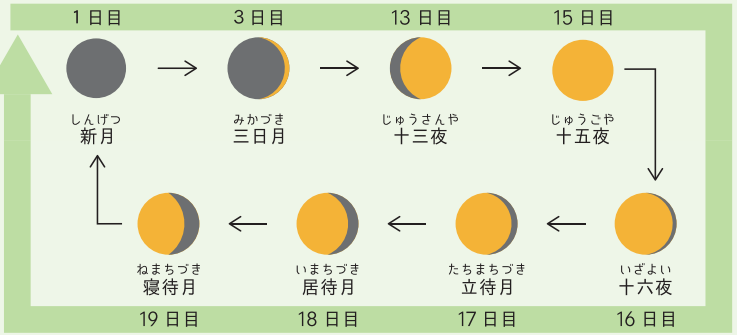
いて座

半人半馬のケンタウロス族の賢者（けんじゃ）ケイローンの姿である「いて座」。へびつかい座に描かれる医者や、ヘルクレス座の勇者を育てた先生でもあります。いて座の胸からうでのあたりに並ぶ、北斗七星（ほくとしちせい）にそっくりな「南斗六星（なんとろくせい）」が目印です。

今月のポイント

月の呼び名いろいろ

新月の日を“1日目”としたときの日本ならではの月の呼び名。実際の月の形とは少しずれがあり、十五夜の月は満月とは限りません。他にも「更待月（ふけまちづき）」や「有明（ありあけ）の月」と呼ばれる月もあります。



まだまだ続く空の夏

9月に入ると秋の訪れを感じますが、空では夏の星座がまだまだ見ごろを終えていません。夏の大三角は、9月の宵（20時ごろ）にようやく頭の真上近くでかがやくようになります。ただ、今年の夏の夜空を彩っていた木星と土星は西に傾きはじめています。木星のそばの さそり座のアンタレスや、暗い星が多く街中では見つけづらい いて座の目印「南斗六星」も土星を頼りに辿ることができます。夏が去ってしまう前に探してみてください。

また今年の「中秋の名月」は9月13日。高すぎず、低すぎず、見やすい高さでとても明るい月がかがやきます。10月に訪れるもう一つの名月「後の月（十三夜）」と合わせて、ゆっくりお月見をお楽しみください。